

府職労  
70周年記念  
キャラクター



(くわしくは4面)

# 府職の友

FUSYOKU NO TOMO

2042号 2016年7月6日

発行所/大阪府関係職員労働組合  
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59  
電話 06(6941)0351・内線3740  
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541  
Eメール info@fusyokuro.gr.jp  
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp  
発行人/有田 洋明 編集人/小松 康則  
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

## 2016春の本庁(大手前・咲洲)残業実態調査



# やっぱり半数が残業

# 「職員の削減が残業の増加に」63%

府職労は6月7日と9日に大手前・咲洲庁舎それぞれ「2016春の残業実態調査」を実施しました。今回の調査でも約半数(大手前1297人、咲洲846人)が残業している実態が明らかになりました。これまでの調査でも同様の状態であり、恒常的・慢性的な残業実態が浮き彫りになっています。直近1ヶ月(5月)の残業時間では、30時間以上の残業をしている職員が約3割となっています。また、約半数が時間外勤務をすべて申請していない実態も明らかになっています。

「職員数の削減が残業の増加につながっていると思うか」では、63%が「非常に思う」「思う」と答え、「時間外勤務の縮減に必要なこと」では、①「職員の定数増(63%)」、②「不要な業務の見直し(54%)」が上位を占めています。

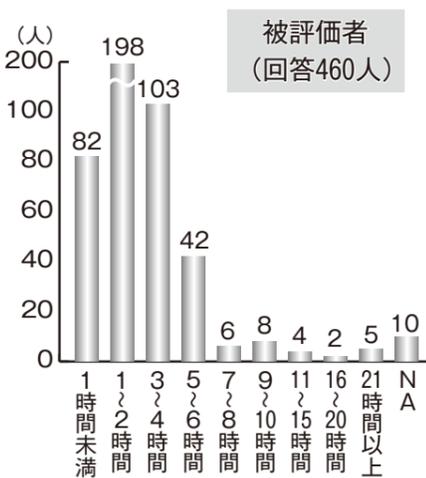
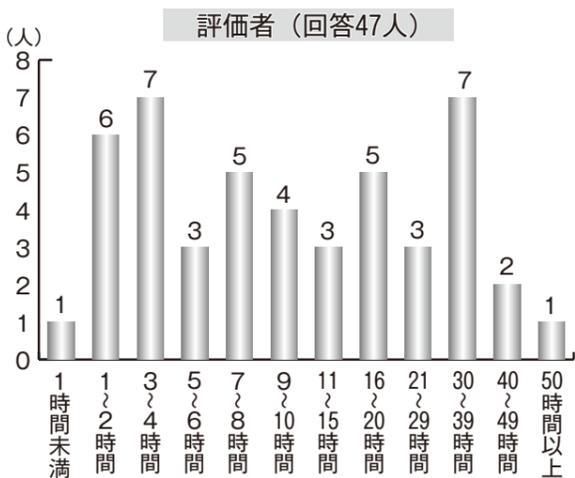
### サービス残業はあってはならない 必要な職員を配置せよ

府職労は、こうした実態を踏まえ、夏季要求交渉で業務に必要な職員の配置、も府当局を迫り、時間外欠員の補充等を求めました。府当局は「サービス残業はあってはならない」

「7月8日を時間外勤務削減強化月間とする」「本気になって時間外勤務の削減にとりくむ」と回答せざるを得ませんでした。

府職労は、引き続き、実効ある長時間過密労働の解消に向けた実効ある措置を強く求めるとのべをすすめます。(2面に職場の声掲載)

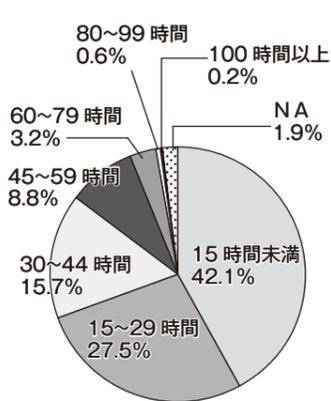
人事評価制度にかかわる業務(チャレンジシートの記載、面談、評価事務等)に費やす時間/年



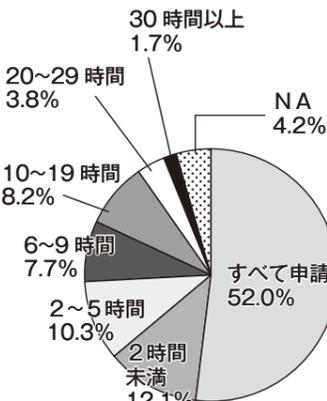
18時30分以降の退庁者数

退庁時間	退庁した職員数		計
	大手前 (7日実施)	咲洲 (9日実施)	
18時30分~19時30分	421	389	810
19時30分~20時30分	293	150	443
20時30分~21時30分	280	172	452
21時30分~22時30分	191	73	264
22時30分以降残業者数	112	62	174
合計	1,297	846	2,143

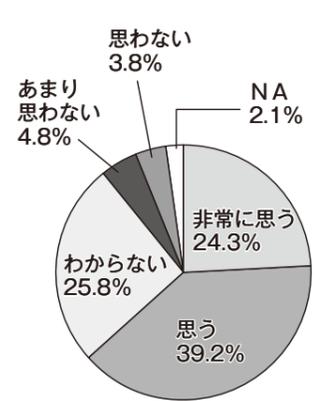
直近の1ヶ月(5月)に実際に残業した時間数(休日出勤も含む)



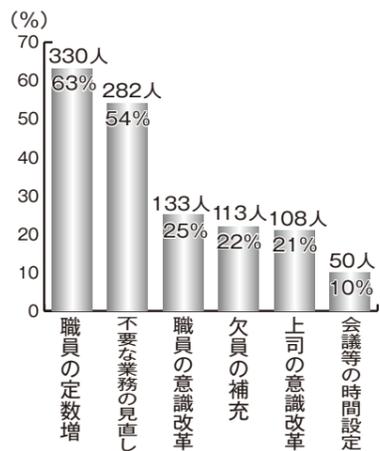
直近の1ヶ月(5月)で時間外手当の申請をしていない残業時間数



職員数の削減が残業の増加につながっていると思うか



時間外勤務の縮減に必要なこと(複数回答)



「臨時ポ... ナスが入るか... も」と、職場の仲間が話しかけてきた。彼にその理由を尋ねてみる

と三菱自動車の燃費データ不正事件の補償費がもたらしたことになること。不正の内容は、20車種で試験時の天候などのデータについて、事実と異なる記載をする不正があり、法令とは異なる測定方法を使用し、走行試験を行わず、別の車種のデータなどから燃費を算出する机上計算をしていた▼国土交通省は、三菱自動車等については、今後3年間は検査の厳格化を行い、燃費データの測定に立ち会って、不正がないかすべてのデータを確認するなど、検査体制を強化するとしている。もし、これが環境の規制基準値や食品の残留農薬の検査等で起これば生命にかかわる事態となる▼社会のさまざまな規制は、ものさしを決めて「計る」ことで成り立っている。その守るべき当たり前のルールが破られれば、取り返しのつかない事故を引き起こす。データの捏造は、もちろん論外だが、測定方法を知らない者が計った結果も信頼できない。官民間問わず、社会の土台である「計る」仕事に携わるものの責任は大きいと感じる。(U)